



できる楽しさいっぱい 優しさいっぱい 元気いっぱい 令和8年度5月号

早稲田小だより

1年60名 2年42名 3年50名
4年57名 5年70名 6年61名
計 340名

あたたかな心にふれて

校長 中西 健二

<4月24日離任式4日前>

やわらかな春の光の中 子どもたちの歌声が朝の学校に響いている。

それは お世話になった先生方へ思いを込めた離任式の歌。そして 3・4組さんを訪れた折 心と目に留まった一つの光景があった。

離任式の歌を練習している際に一人の児童が そっと 目頭を 押さえた。

その男の子の担任の先生はこの春の異動で学校を離れてしまった。言葉はなくてもその小さな仕草から これまで共に過ごしてきた日々の重みや 先生への深い思いが胸に伝わってきた。

こみ上げる気持ちを懸命に受け止めているその姿に 胸が熱くなった。

<4月16日タンポポの花束>

校庭で除草作業をしていた時のこと。

一年生の女の子が 小さなタンポポを七つ摘み そっと花束にして

手渡してくれた。「どうぞ」と差し出されたその手のぬくもりと 少しはにかんだ笑顔が今も心に残っている。いただいた花束は 湯のみ茶碗に入れて校長室に飾った。ささやかな花だが 見るたびに そのやさしい気持ちがよみがえり 訪れる方にもついお話ししたくなる大切な宝物となった。



別れのさみしさに涙する心も 誰かを思って花を手渡すやさしさも どちらも子どもたちの中に確かに育まれている大切な美しい心。日々の何気ない場面の中で その豊かな心が静かに息づいていることを改めて感じ 嬉しく思う。

28日 離任式の日 子どもたちはそれぞれの思いを胸に お世話になった先生方を送り出した。温かな感謝の気持ちに満ちた 特別な式になった。こうした子どもたちの心がこれからも大きく やさしく育っていくことを信じている。